

# 琉球大学学術リポジトリ

## 全琉緑化推進運動期間を迎えて

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大山, 保表, Oyama, Hohyo メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20624">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20624</a>

# 全琉緑化推進 運動期間を迎えて

## 1. はじめに

1963年度の全琉緑化推進運動も、植樹適期の11月～6月の季節を迎えて、去る11月19日の緑化本部委員会、11月21日の全琉緑化支部長会の開催によって、全琉住民の愛郷心に燃えた郷土緑化の植樹が全琉各地で、それぞれ実施されつつありますが、本運動をとうして、年々郷土の緑化が高められ、それに伴って郷土の各種の環境が改善されていくことは、郷土の将来の物心両面の発展のため誠に喜ばしい。本運動をとうして青少年に心の潤いと建設的意欲を高め、全住民の愛郷心をより高めるとともに、住みよい豊かな環境の郷土建設が着々前進することを願って止まない。

## 2. 国土緑化国民運動の意義

世界各国において、それぞれの国土の一部が国有林や公有林に設定されて、それぞれの国家や公共団体によって林業が経営され、さらに、それぞれの国において、国土緑化事業が国民運動として、それぞれ熱心に推進されつつある理由は、①樹木類は、その寿命が極めて長く、長年月にわたって巨大かつ強靱に成長を続ける。

② その巨大性と強靱性は、人間や作物類が生活し生育する地表気象圏の各種の微気象要素、主に風や陽光を遮ることによって、さまざまな状態に変化させ調整するとともに、それぞれ特異な風景の創造や空気清浄化の役目を果して、人間の保健と精神上に好影響を与える。

③ 傾斜地形においては、長大に生育した根や多量の落葉腐植物の供給などによって、土壌の物理化学性の維持と改善に役立ち、それに伴って土壌の吸水速度が高められるため、治山治水効果が改善されていく。④ 木材は生活必需品であり、輸送費に多額の経費の伴う商品であるため、国または地域別に常々一定の使用量が保続的に供給されなければ、国民の生活と経済に大混乱を招くことになるが、木材生産業が長期生産企業であることと、企業として投機性が低いいため、各国ともに将来の木材需要量の増大に対する生産供給量の著しい不足を予想しながらも、一般民の造林投資は常に低調なる傾向に

あるので、国有林や公有林における造林量と伐採量の調整によって、木材供給量の著しい不足を緩和することなどにある。要するに寿命が長く、野生性が強く、巨大かつ強靱に成長することなどによって、国土保全の長期的基本施設として、比較的経済的に造成されて、その効果も顕著であることと、生活必需品の木材生産をも兼ね得ることは、林業のみの持つ特色であり、国土緑化の重要性であります。

以上の見解に立つて、世界の国々では各種の保安林を法律で設定維持し、さらに一般山地林は勿論のこと、平地にも適宜に必要な量の森林配置を期し、それぞれの森林の維持改善によって、国土の保全を期している。

## 3. 日本やアメリカ合衆国の国土緑化

日本々土においては、戦後保安林が増強され、保安林の占める面積は全国土の約9%に及び、その種類は水源涵養、土砂の流出や崩壊の防備、飛砂の害や水害や潮害や干害などの防備、防風林や防霧林や防火林、なだれ防止林や落石防止林、魚つき林や航行目標林や保護林や風致林などの各種の保安林を設定維持して、保安林に国土保全上の多くの期待を寄せており、それらの保全的効用は、一般林においても同様に期待し得るものであり、かつ国土緑化の質的充実度に応じて、その効用度も上下することを指示しております。さらに、日本々土においては、海岸地帯における防潮保安林としての指定面積は約9,000町に過ぎないが、海岸地帯農耕地面積の約70%にも及ぶ保安林面積の約9倍の民間造成防潮林が配置されていて、13万余町に及ぶ農耕地の防災と生産向上への基本施設としての役目を果している。一般山林についても里山地帯や開発可能林地への積極的な造林、奥地天然林の天災や人災よりの保護などによって、全国土の緑化の量と質の維持改善を図り、それに伴う国土保全の改善を期しつつある。

アメリカ合衆国が国民運動としての国土緑化推進運動の創始国であり、現在最も深い理解を持った熱心な推進国であって、その実績も著しい。その後、世界各国が範をアメリカに求めて、それぞれの国で国土緑化推進

運動を全国民を対称とする国家行事として実施していることは申すまでもない。新しい開拓国としてのアメリカ合衆国が短期間ながら、国土保全についての研究とその知識を豊富に有するようになって、開発に当っては極めて慎重で、その合理性を期しつつあることは有名であり高く評価されている。

#### 4. 沖縄の国土緑化の経過と その重要性

沖縄における国土緑化については、蔡温による林政々策は余りにも有名で、その森林の造成や保護に関する技術や政策の優秀性と熱心な実施による国土緑化の実績は今日もなお日本を始め諸外国において称讃され参考にされつつある。台風と強い冬季の季節風にさらされた小島の集団である全沖縄の悪い環境条件を素直に認めた上で住民の経済生活の主体をなす農業や水産業の保護育成の基盤としての山地林業の育成や平地における諸施設や農耕地や港湾などの周辺の緑化に政策の重点を第一着に向けたことは、住民の物心両面の生活の安定と平穩を期し得た賢明な政治施策として肝銘にたえない。有名な魚鱗形施業法は、風の強い沖縄における森林造成に当たっての苦心の結果考案された成木林帯による造成稚樹林の合理的保護育成法であるとともに、合理的国土保全法であることが理解出来る。蔡温林政によって樹立された国土緑化も廢藩置縣の年代を経て戦災と戦後の復興建設資材の伐り出しの役目を果しつつ荒廢の度は進められた。その後、戦災復興の進展によって社会も落ちつき、また年々繰り返えられる風水害への反省度などもあって、緑化の強化が痛感されるようになり、最近には強力な全琉緑化推進運動の政策が展開され、実践されつつある。

現在の全琉の山林は、戦災と復興資材の伐り出しが続けられて、森林面積も著しく減少したが、他の大面積森林からの抜き伐りも盛んに行われたため、質的にもかなり荒廢を招いている。1960年までの10カ年の間においては、皆伐森林面積に対する造林面積は約20%で、さらに皆伐面積の約6~7倍に及ぶ森林の抜き伐りがなされ、それらによって山林民の生計の大部分が維持され、必要林産物の量が確保されて今日に至った実情にあって、全琉山林は質的に荒廢を続けているので、その生産量も国土保全機能も極めて低下していることがうなずける。おまけに都市部や道路その他の諸施設地帯や農耕地帯や海岸沿線地帯の森林面積の配置は本土などに比べて極めて少なく、かつ質的にも劣っているため年々農作物や諸

施設への被害が繰り返えされて、復興の進展をはばみ、住民生活や社会相に混乱と不安を与えつつあることは否めない。

以上要するに現在の沖縄の緑化は、従来とられた普通並の手段と方法では衰退の一途を迎えるのみであって、未曾有の大政策、思い切った組織と予算と技術研究と全琉住民の深い理解と強力な協力に支えられた造林の一大拡大と万全の保育による以外には沖縄の緑化の前進は望み得ない。

沖縄も決して悪い条件のみを持ち合わせている訳ではない、亜熱帯に属する樹木類の創造する特異な風景や特異な草本植物、周辺を美しい海とリーフで取り囲まれた沖縄独特の観光資源の開発は沖縄の経済上極めて重要な分野で、従来さほど強力な政策も投資もなされないながらも、今日の観光収入は全琉収入の20%の100万弗に及んでおり、緑化の推進によって、より美しく住みよい環境を創造して観光資源の開発と発展の最善を期したい。

貿易自由化の波はコスト高の沖縄産業の重大問題点となっているが、充実した周辺森林で創造される良好な農地の環境の下で台風や季節風による機械的生理的風害を大きく緩和して増産を図ることが重要である。さらに徒らに土壌保全その他の条件の悪い低生産性農地の面積拡大を焦ることなく、農地環境の改善と良好な環境農地での作付けの繰り返しを行うことを重視して、むしろ経済的に環境改善の不可能な農地は防災を兼ねた農用林に切り換えてほしい。

台湾では市街道路や農道には並木が、あらゆる除地は竹林や農用林が、農地の畦畔には耕地防風林が整備繁茂し、さらに農地や作物の生態条件によっては混農林が経営されて、樹林に支えられた良い農地環境における増産を期していることは参考に値する。

近年の木材利用科学の進歩は著るしく、世界的に植物資源として量的に最も大きく、かつ立地条件は悪くとも単位面積当りの植物資源の生産量も遙かに多い木材資源の利用面への研究については、各国の多くの学者が専念しつつあることなどを考えると、樹木類の経済価値はいよいよ急激に上昇することが予想される。従来の用材主体の木材消費時代においては、沖縄産樹種の商品価値は極めて低いか、皆無の樹種が多かったが、パルプを主とする工業原料材や特殊処理材の消費量が激増したので沖縄産樹種の経済価値は特に急激に上昇している。本土製紙会社での研究製作の結果、リュウキュウマツは最も良質のプルブ原木であり、モクマオウも良質パルプ原木である事が保証されており、ツイその他の天然生広葉樹類

でもパルプ原木としての質的条件を十分に備えていることが予想されている。現に本土の十條製紙が赤字を予想しての現存林の伐採利用をなしながらも、造林による将来の利益を予想して、西表を主体に最近では沖繩本島の造林にも乗り出していることに注目したい。また最近、本土各パルプ会社では、遠くソロモン群島森林の伐採と輸入を執行せねばならない実情にあるが、さらに30年後には、木材総使用量は現在の1.5倍、パルプ原木使用量は現在の3倍の9,000万石を推定して多くの木材輸入を予想している。

以上のような条件にあるので、あらゆる空地に根気強く森林を育てて、完全な全緑化を速やかに完成して、美しく住みよい観光の島、自由貿易や天災におびえない農業、林業、水産業その他産業の確立された環境の島に

したい。

政府林務課では組織や予算や技術研究などの強化を図ることによって、緑化の主軸をなす山地造林については、1970年までの10カ年間に政府直営造林約8,200町、民間造林約24,500町が立案されているが、関係首脳者の理解と英断によって、国土緑化の前進のため、本計画が速やかに実現に移せる処置が採られることと、住民の協力によって、本計画以上の緑化の成績があげられることを望んでやまない。

1959～1962年度の間第1次緑化推進運動による植樹実績は約1,060万本となっており、去る11月以降の1963年度には約300万本の植樹が計画されており、住民各位の熱意によって計画以上の植樹が実施され、生育をとげていくことを望んでやまない。 (大山保表)

# 分球、株分け、取木法

種子を播いて繁殖する有性または実生繁殖法に対して植物体の一部を繁殖に用いることを無性または栄養繁殖と呼ばれる。無性繁殖法には分球、株分け、取木、挿木接木、芽接法がある。

## 1. 無性繁殖法が共通して重んぜられる主要な点

(1) 同一の形質の個体が簡単に繁殖できる。すなわち親木の一部を使用して生育せしめるゆえ、繁殖された植物体はすべて親木と同一遺伝的素質を持っている。種子によって繁殖する場合は個体間の遺伝的素質が著しく異なる場合が多く、また親木よりは一般に劣等な素質を持っているものである。それ故、無性繁殖法は果樹、花卉類の繁殖に広く行なわれている。

(2) 短期間に独立した苗が得られ、開花が早い。

(3) 一般に草丈(樹高)が低い。すなわちわい性で開花するので、果樹では収穫し易くなり、花卉では花壇、鉢植に適する。

## 2. 分球 株分け 取木法

### 1. 分球繁殖

分球繁殖は球根類の繁殖に行なわれる方法である。園

芸上、球根といっても植物学的には構造や組織が著しく異なったのが含まれている。塊茎(アネモネ、ランキユラスなど)は茎が団子のような塊になってできている。球茎はグラジオラスやフリージアのように茎が養分を蓄えて多肉になり、外観は茎が圧縮されたように短い節が見える。鱗茎には二種類あり、スイセンやアマリリスのように外側が皮につつまれ玉葱の形をしているものと、ユリのように鱗片がばらばらについているものがある。カンナやジンジャは地下茎が太ったものだが、園芸上球根として取扱われている。地下茎は一節ごとに芽も根も出るので、繁殖は容易なものである。塊根はダーリアのように根が太って球根になったもので肥大根の上部クラウンと呼ばれる部分についている芽もつけて分割しないと芽は出ない。

分球繁殖は栽培中自然に生ずる子球あるいは分球を分離する方法と人工的に種々の操作を行って子球の着生を旺盛ならしめる方法がある。すなわち、ユリの場合には、植付けられた球根がある期間たつと自然に分球し、容易に分離繁殖ができる外、母球の上部から地際にある茎の葉腋に数個の小形の球根ができるから、これを繁殖に用いる。このものは木子とよばれ最も広く繁殖に用いられている。また一枚一枚の鱗片を挿木するとその上に子球が発生するので、一時に多数増殖することができる。